

あ～ったか移動町長室記録（斜里町指導農業士・農業士会）

日 時	12月21日（月）9:30～11:30	会 場	役場応接室
町民参加者数	4人（事務局含む）		
内容詳細			
指導農業士・農業士会の発言		役場からの回答	
<p>【会長あいさつ】 今年は融雪も早くすみ、特段目立った災害なかった。澁原馬鈴薯は前半、反収を十分に確保できたものの、後半思うように伸びず、生産額は多少の増収にとどまった。一方、人参は市場価格の下落により、昨年からみると生産額は6億円減少した。農業生産額の合計は107億円。昨年から見ると落ち込むが、ここ数年の中ではまずまずの結果といえる。 本日はお互い忌憚のない意見交換ができればと思う。</p> <p>【道路の排水・舗装整備について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年突発的な豪雨によって、道路に流れる水量が多い。道路に設置している柵の上のゴミを取り除くだけなら自分たちの手でできる部分だが、側溝の清掃まではなかなか難しい。以前は定期的に清掃していたようだが、手が回っていないようだ。 ・町道6号の整備について。重要な輸送道路であるが、轍などで走りやすい状況とはいえない。事故やトラブルを防ぐためにも、整備の見通しについて知りたい。 <p>【ジャガイモシロシストセンチュウの対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シロシストセンチュウが網走で確認されたが、まだ十分に対応がなされていない状況。オホーツクでシロシストが出たということは現実として受け止め、地域一帯となり知恵を絞らないと厳しい。 ・排水の問題もそうだが、それぞれの地域の課題について自分に関係ないという思いはなさなければならぬ。自分よりも次の世代という意識を持つことが必要。 		<p>【町長あいさつ】 みなさんから町長室の要請をいただいたこと、まずもお礼を申し上げたい。 光環境の整備、排水対策について今後も要望し続け、みなさんをご相談をして進めていきたい。 飽寒別地域の農業排水対策について、町の負担をできるだけ少なくして事業を行うためには、国営でやらざるを得ない。整備費の負担は減るが、その後の維持管理の負担は大きい。受益者が十分に理解しなければ望んでいるものはできない。町はもちろん、みなさんも覚悟していただく必要がある。 また、農業以外にも様々な課題にも、町民の一人として知恵を出していただき、いい町をつくっていきたい。</p> <p>→ 道路の整備は農道保全事業などを活用し、幹線道路を優先して整備を行っている状況。</p> <p>→ 排水管の清掃については、多面的機能支払交付金の活用していただきたい。農地と道路排水が兼用となっている箇所は農地維持の観点から活用可能だと思う。これは地域のみなさんが活動したものに対して交付金が出る仕組みなので、沿線上の農家のみなさんで年一回清掃をやるなど、ぜひ活用してほしい。</p> <p>→発生地域では個人レベルの洗浄にとどまり、水際までは手がまわっていない。センチュウ根絶のため対策や抵抗性品種の開発が進められている一方で、広域的な洗浄施設設置などの「まん延防止対策」は進んでいないのが現状。</p> <p>→洗浄施設については斜網地区で広域的に取り組むべき課題ではあるという認識をしている。</p>	

【農業 ICT 化に係るインフラ整備について】

• 町内の農家戸数が減少しているがこれからも、農地を維持管理していかなければいけない。農家の負担を減らし、今いるベテランの人の技術を外部から来た人に伝承させるためには、データという形で残す必要がある。また、今後さらに農業に人工知能技術を活用するためにも、データの蓄積は不可欠。通信インフラの話になってしまうが、データを随時やりとりできる環境はますます重要になる。

• 農家それぞれが意識を持って、光環境が整備されたらどう活用していくか考えていかなければいけない。

【人材の育成について】

• どの業種でも人手不足の状況の中、農業では道内で畜産分野がベトナム人の通年雇用を行っている。

【観光との連携について】

• 今年の観光客の入り込み客数はどうだったのか？

• 知床に 1 回来ただけではなく、何度も来て欲しい。通過型ではなく滞在型の観光を目指すべき。

【JR の存続について】

• 地域住民の交通手段という面や農産物の輸送という面でも、現状のまま JR が存続することを願っている。

→それぞれが当事者意識を持ち、協力し合わなければ、課題解決に向けて一歩先に進めない。

→データを活かす上で、インフラ整備の必要性は十分理解している。

→今年の 3 月に道議会で、インフラ整備について国に要望するという話が初めて出された。斜里の光環境の面積カバー率は 2%。今まで民間が光環境を整備する基準としては、人口密集地区が中心だった。それだけではなく、社会基盤・生産基盤として重要ということも国は認識しなければならない。

活性化期成会、自民党移動政調会でも要望はし続けているところ。

→光環境が整備されてよかただけではなくどう活用していくかを訴え続けていくことが重要。

意識を持った農家がどんどん広がるよう、普及について指導農業士のみなさんに期待したいところ。

→季節雇用だとなかなか人が集まらない。それぞれの現場で考えるのではなく、時期をつなげて通年で雇用できる仕組みが構築できれば課題解消に結び付くのではないかと。定住者を増やすという面でも、真剣に取り組まなければいけない時期ではある。

→宿泊客は昨年比で 1.3%増。観光を大事にするということは、一次産業も大事にすることにつながる。知床というブランドの価値を高めていくためには、これからますます産業間の連携を強くしていく必要がある。その時は協力していただきたい。

→農業も観光資源の一つ。農地や人参工場の見学など農業が身近になる道はないのだろうか。また、見学会など町内の小学校の授業でも取り入れられ始めているが、斜里のことを知るといって面で教育分野との連携も重要である。

→維持存続するためにどうすればいいか、現在は勉強会を重ねながら検討を重ね、観光での活用方法について模索している。残したいという気持ちは同じ。みなさんの声を出し続けて欲しい。

※その他、知床ナンバーについて町長より説明を行った。

【副会長あいさつ】

いろんな課題について検討でき、有意義な時間を過ごせた。自分たちも持ち帰って農協・地域の方々と共有して、よりよいまちの姿を考えていかなければいけない。また、抱えている課題について一步一步取り組んでいかなければならない、そのためにはこのような意見交換の場が重要だと感じた。

貴重な機会をありがとうございました。